



小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
魚の卵の成長 / 理解シート

メダカは、なぜ見られなくなってしまったの



農薬などで水がよごれて生きられなくなったり、外国産の生活力が強い魚がふえ、メダカはへってしまったからだよ。

メダカのすみかは、農薬などでよごれやすい人家の近くの川や池、用水路

メダカは、田んぼの水が流れる用水路や、小川、池などにすんでいて、日本全国どこでも見られる魚でした。けれども、害虫たいじのための農薬や、雑草をからす除草剤などが大量に使われるようになって、これらの薬が流れこむ用水路、小川などにすむ生き物は、ほとんど死んでしまいました。家庭で使われる洗剤なども、川や池に流れこみ、水中の生き物の数をへらす原因になっています。

そのため、生きられるすみかがへってしまい、メダカは見られなくなったのです。

外国産のカダヤシは、メダカのたまごを食べてしまう

80年くらい前、ボウフラを食べて力をたいじしてくれるということで、カダヤシとよばれる魚が、外国からとりよせられ、ぬまや用水路などに放されました。

あちこちの川などで見られるカダヤシは、メダカと大きさや見た目がそっくりで、同じようなところにすんでいるため、よくメダカとまちがえられます。

魚は、たいてい、たまごのときほかの生き物に食べられることが多いため、大量にたまごを産みますが、カダヤシは、おなかの中でたまごがふ化して、子魚で生まれてきます。そして、メダカなどのたまごをよく食べます。そのため、メダカは数がへり、カダヤシは数がふえていったと考えられています。

